



ALHΘEIA

豊橋技術科学大学附属図書館報

ものづくりと社会／洪澤博幸.....	1
得する学生生活の図書館利用法／南 亘.....	2
新入生を迎えて／斉藤剛史.....	3
新入生を迎えて／竹谷 基.....	3
大学図書館職員講習会に参加して／鈴木明美.....	4
はじめて図書館を利用する方のために.....	5
文献情報ガイダンス.....	9
Information.....	10
TUT-L NEWS.....	12

特集 新入生を迎えて

ものづくりと社会

洪 澤 博 幸

バブル経済崩壊後、失われた10年を経てもなお日本経済は低迷の中にあり、早急な回復が期待されている。我が国は、短期的には経済回復という緊急課題に直面し、長期的には循環型社会の形成、産業構造の転換、国際化、及び高齢化・少子化への対応といった課題を抱えている。世界に目を向ければ、我が国は経済的には豊かな国のひとつであり、世界経済安定のために重要な位置にあることも事実である。

ものづくりを中心とする製造業とそれを支える技術力は、現在もなお我が国の経済発展の重要なファクターである。先端的な分野も技術や人的資本の蓄積があってこそ開花される。本学で技術科学を学ぶことに夢と希望をもって入学された新入生及び編入生に、「おめでとう」とお祝いの言葉を述べるとともに、将来、社会経済に様々な方面で貢献されることを願っている。

環境問題がクローズアップされるようになってから、ものづくりの社会的な立場は変化している。便利なものを生み出すだけでなく、そのプロセス、そして生み出されたものが、個人の生活スタイルや社会に与える影響を十分に考慮しなければならなくなっている。消費者側の意識の改善もさることながら、生産者側の環境への十分な配慮が要求されている。

地球環境問題を議論する際に、引き合いにだされる言葉に、Think Globally, Act Locallyがある。これは地球規模で考えて、地域的(地道)に行動せよ、ということの意味している。これは、ものづくりのプロセスにおいても十分にあてはまる。また、現代的なグローバリゼー

ションが急速に展開する中で、世界における自らの立場や役割をしっかりと把握しておかなければならない。

未来を定めることは容易ではない。しかし、すべてのものが常にこの問いに追われている。環境や社会の持続発展性を考えるには総合的アプローチが必要といわれている。個別科学のアプローチを特化・深化させるのではなく、多様な科学の融合による新たなアプローチの形成である。宇宙の誕生からの近未来まで長い期間にわたって世界全体をマクロ、メソ、ミクロの観点から見通す目を養うこと、あるいはその姿勢を維持することである。社会、文化や経済の意味を理解するとともに、社会を形成している個々人の生活スタイル、価値観や人生観にも配慮しなければならない。

答えは得られないかもしれない。少なくとも、過去に学び、実際に自然や生態系に触れて、様々な社会的・文化的活動に参加し、多くの人々に接し、そして自分を見つめ直すことの努力を惜しまず続けてゆくことは必要であろう。しかし、我々がもちうる限りある時間の中で、これを達成することはたやすいことではない。図書館には、人類が蓄積してきた多様な情報が結集している。先人は、多くのメッセージを我々に残している。総合的な感覚をそなえた技術者であるとともに、一人の人間として、自らの世界観、人生観を形成するために、図書館を積極的に活用(think)していただきたい。そして、行動(act)である。

(人文・社会工学系 講師)

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。待ちにまった、大学生活の始まりですね。大学は学校と名のつく最後のところ。これから卒業するまで学生生活を満喫して、有意義な学生生活を過ごして欲しいと思います。よく、“大学は人類最後の長期休暇”という人もいますが、これは人の人生を真に左右する期間でもあります。たくさんの知識、経験をスポンジに水が吸い込まれる如く得る人もいれば、部屋にこもってゲームだけしかしないで過ごす人もいます。有意義な学生生活を過ごすかどうかは、まさにその次第であります。

有意義な学生生活を送る為に、日ごろから心がけてほしいことがあります。それは、好奇心を鍛えるということです。学校の授業でも、日常生活においてもいろいろなことに疑問をもち、興味を持って、知ろうとする気持ち。そのような純粋な好奇心を持ってください。好奇心を持つにしても、その好奇心に応えるにしても、その最も良い方法と場所が図書館での本の散策です。学生最後の大学時代において、有意義で後悔しない時期を過ごす為にも、ぜひ、図書館を有効に利用してください。その得する学生生活の図書館利用法としてすこし紹介させていただきます。

とにかく行って、見て歩くこと。これが学生時代に図書館を利用する最も良い方法だとおもいます。皆さんは大学受験の為に猛勉強して、苦勞して大学に入学したと思います。そうして入った大学では、自分の選んだ好きな専攻の授業が毎日開催されているはず。しかし、実際は選び間違えていたり、期待はずれであったりすることがあります。そんなとき、そう思ったときはぜひ、図書館に行ってください！

図書館に行けば、様々な情報があります。もしかして友達もいます。もし、友達がいなくても、本というのは一種の友達みたいなものです。友達にはいい奴もいるし、悪い奴もいます。それは自分の人生にとって有益なことを教えてくれる友達であったり、考えさせてくれる友達だったりします。そういうところで、図書館の本達は友達にとっても近いです。

人間はいつだって一人で何役もこなしています。自分自身は両親から見れば子供ですし、親戚からは甥や姪、また、兄弟姉妹がいればそれらです。ひとたび学校にすればあなた達は学生です。一人の人間がこのようにたくさんの立場や状況が重なり、また刻々と変化していくと、その時々で必要な情報というのももちろん違います。しかし、図書館はどのような人が来ても、その時々、その人の状況、立場に相応の本や情報が必ず待っています。

例えば、社会情勢が知りたければ新聞が毎日ありますし、アルバイトしたければ新聞にも書いてあります。授業でわからないことがあったり、生活で気になったこと、テレビで報道される疑わしい事象、とにかく知りたいことに適した本があります。コツは、ゆっくり10歩あるいてみることです。そうすると、あなたの知らないことが書いてあり、興味をそそる内容の本が必ずあります。また、気分を変えたいときは様々な小説もおいてあります。それらもいいですね。

ファミリーレストランで食事するとき、始めにメニューを見ます。その中で好きなものを選んで注文するのですが、学生時代に見る本は（あえて読むではなく）同じです。世の中にある本達を、図書館を散歩しながら見て、面白そうだなと思う本を手にとって見てみます。そして、始めの少しを読んでみます。うまく友達になればもっと深くまで読んで自分なりにその内容を消化してゆきます。たまには消化のしやすい絵が多い本を選んでもいいし、知らない分野に冒険してみても良いでしょう。

このように図書館を散歩しながら、レストランのメニューを見るように本を選び・読むことが学生時代に図書館を利用する最も良い方法であると思いますし、それは社会に出てから、知識の幅・考える幅を広くする重要な要素だと思っています。ぜひ、図書館で歩いて下さい！

(エコロジー工学系 教務職員)

新入生を迎えて

齊藤 剛史

新入生の皆さん。ご入学おめでとうございます。これから始まる大学生活が皆さんにとって有意義なものになるようにお祈りいたします。

さて勝手ですがこの場をお借りして、学生から見た本学の図書館について紹介させていただきます。最初に覚えて頂きたいことは、本学の図書館は、今まで皆さんが知っているような図書館とはひと味違うということです。これは僕が実感したことです。一般的に図書館というと、小中高校や各自治体にあるようなもので、社会、経済、語学から教科書や参考書、小説などに至るまで全般的な分野の蔵書が均等に開架されています。もちろん本学の図書館も全般的にあります。しかし、工学系大学ということもあって、工学に関連する図書が主に占めているのです。図書館は三階建てですが、1階には辞書や辞典、科学技術文献速報、JIS規格などが、2階には和洋の学術雑誌が大半を占めています。そして私たち学生が主に利用する3階に、工学系の参考書から小説などの蔵書が開架されています。文章では上手く違いが伝わらないかも知れませんが、是非図書館を利用して下さい。「ひと味違う」ということが実感して頂けると思います。

本学図書館の特色として、館内だけでなくインターネットにも対応している蔵書検索システム、友人やサークルの集まりなどによく使われる会議室、DVDやビデオの視聴が可能な視聴覚室、インターネット接続可能なデスクトップ型パソコンとノート型パソコンやコピー機など、勉学に役立つ環境が整っています。さらに僕たち不規則な生活時間を過ごす学生が重宝できる24時間開館サービスまであります。「じゃんじゃん勉強していいよ！」って言っている気がしますね。

最後に、8年間本学の学生として図書館を利用してきて感じたことを伝えます。本当に勉強や研究に励みたいのであれば、必ず図書館を利用しましょう！ある程度の勉強は、各自が持っている参考書やインターネットなどの検索でも可能ですが、やはり限度があります。図書館には数多くの資料があります。それらを有効に利用し、社会を担う一流の技術者となるように目指して頂きたいです。おまけですが、図書館に関してわからないことがあればカウンターに声をかけてみて下さい、優しい職員？さんが相手してくれますよ。

(電子・情報工学専攻 博士後期課程3年)

新入生を迎えて

竹谷 基

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。大学での図書館を利用する場合、ほとんどがレポートや研究の資料を集めるためだと思いますが、図書館のOPACなどをうまく利用し効率的に参考資料を集めてください。よい資料を集めることも有意義に学生生活を送るためには重要です。最初は図書館の利用で色々分からないことがあるかもしれませんが、そのときは遠慮なくカウンターに一声かけて下さい。誠心誠意を持って対応しますので、きっと満足のいく返事がもらえると思います。基本的に図書館でなにか疑問点があったら、カウンターに直行しましょう。

図書館には参考資料のほかに定期購読している雑誌もあります。残念ながら漫画などは購入していませんが、何か購入してほしい雑誌や参考資料がありましたら申請書に記入して提出して頂くと購入されるかもしれません。有名小説もありますので、個人で購入するには抵抗のある方は申請してみてください。詳しいことはカウンタ

ーで聞いてみましょう。

勉強に疲れたときには図書館のDVDなどを見て息抜きをすることもできます。見る場合は視聴覚室や視聴覚個室を使用します。他にはグループ研究室や小グループ研究室などがあり、サークルや研究室のミーティングで使用するのにちょうどいい施設となっています。これらの施設を使うためにはカウンターに申し出てください。

図書館は24時間利用可能ですが、無人だからといってモラルの欠けた行動は慎むようにしてください。友人といるとおもわず会話が盛り上がり大声になることがよくありますが、図書館での会話は他の人が迷惑にならないような声で話しましょう。また、図書館では飲食をはいけません。ごく一部がこのような行動をするとみんなが不愉快になり、声には出して注意できなくても冷たい視線を受けることは自明の理です。気持ちよく図書館を利用するためにもモラルを重んじてください。

(機械システム工学専攻 修士2年)

大学図書館職員講習会に参加して

鈴木 明 美

平成14年11月12日から15日の4日間、大学図書館職員講習会に参加させていただきました。出席者は、国・公・私立大学及び高専の97名でした。

15コマの講義や演習は、大学図書館の現状と課題、管理・運営、大学改革と図書館、生涯学習社会と図書館、学術コミュニケーションについて、電子的図書館の機能や整備等について行なわれました。

その中でも興味深かったものをあげますと、一つは「情報リテラシー教育の実際」で、研修の会場である京都大学では平成10年度から情報リテラシー教育を講義科目の一つとして取り入れており、その「情報探索入門」の講義について京都大学附属図書館の職員の方から説明がありました。共通科目「情報探索入門」では、論文・レポートを書くための文献・情報収集、演習による情報活用技術の習得を目的として、附属図書館が科目提供部局となり、複数の学部の教官が講義とそれに対応した演習を交互に行い、その演習の補助者として学内の図書館職員が協力して取り進めています。図書館職員で15名のワーキンググループを設置し、開講の準備を行ったということでした。対象学年は2～4年生としていました。受講生の大半は2年生で、受講後のアンケート結果では、受講生の大半に講義は好評だったということでした。また、講義を行なうことにより、図書館では利用者・職員の相互信頼の向上、図書館への理解等のメリットが得られたというお話でした。

また、講習会中、出席者がグループに分かれ、いくつかのテーマについて共同討議を行ないましたが、私の参加したグループでは、「大学図書館における情報リテラシー教育の展開」について討議を行ないました。情報リテラシー教育について他の図書館での現状・課題をきき、意見交換ができました。各図書館で、科目の違いや学生の人数の違い等によって、情報リテラシー教育における課題等も様々であることがわかりました。その中で共通した意見として、様々な電子的資料が取り入れられるなか、職員の資質向上のために努力が

必要であるということがあげられました。

もう一つは「図書館の電子化と電子図書館」で、電子図書館の経過や施策についてお話がありました。1990年代後半以降、電子図書館的機能が図書館の機能として取り入れられてきました。現在は大学図書館において電子図書館機能が先導的な大学図書館に限らず広く取り入れられていますが、そこで更に目指す高度化した図書館機能として、学術審議会のガイドラインより電子ジャーナル等の体系的な収集、大学等からの学術情報発信機能の強化、学協会からの学術情報発信機能の強化、学術情報の海外への流通を支援する仕組み、国立国会図書館への期待、学術情報の電子化・流通等を推進するための国立情報学研究所による支援が紹介されました。大学図書館は、大学の学術情報の効果的な流通を図る手段として、電子図書館を重点事項としてきており、その手段がある程度整備されてきましたが、今後は大学図書館の重点施策や大学の目的や課題について世界的・全国的な動向をチェックし、対応する姿勢が必要であるというお話を伺いました。

大学図書館を取り巻く状況やその元となる施策等については、知らないことばかりでしたが、今回の研修を通じて学ぶことができました。今後は、取り巻く状況について注意し、業務に取り組んでいきたいと思えます。

(図書課情報サービス係)

はじめて図書館を利用する方のために

情報サービス係

図書館の開館時間

この図書館は24時間利用することができます。開館時間は、職員が対応している通常開館と、職員がいない特別開館になっています。

月曜日～金曜日	通常開館 9:00～20:00
	特別開館 20:00～ 8:30
土曜日	通常開館 13:00～17:00
	特別開館 17:00～12:30
日曜日・祝日	特別開館 0:00～24:00

*春・夏・冬期休業中、年末年始等は開館時間に変更になります。時間の変更は掲示等でお知らせします。

図書館の入館方法

[通常開館]

学生証、身分証明書等（以下IDカード）を入館ゲートに読み取らせバーを押して入館してください。

[特別開館]

IDカードとパスワードを使って特別開館専用入口から入館します。特別開館時間帯の利用方法及びパスワードについては、4月に行われる「図書館利用ガイダンス」で説明します。

資料の貸出・返却方法

[貸出]

IDカードと借りたい資料をカウンターに提示してください。図書自動貸出返却装置(ABC)がカウンターの前に設置してありますので、自分で操作し借りることもできます。視聴覚資料は、カウンターに提示してください。図書自動貸出返却装置(ABC)は使用できません。

図書	学 生	貸出冊数 7冊以内	貸出期間 20日以内
	教職員	貸出冊数 10冊以内	貸出期間 30日以内
視聴覚資料	学生・教職員とも	貸出点数 3点以内	貸出期間 3日以内

借りたい資料が貸出中の場合は、貸出の予約ができます。館内の蔵書検索用端末(OPAC)や図書館HPから予約できます。

[返却]

返却する図書をカウンターまでお持ちください。図書自動貸出返却装置(ABC)を自分で操作し返却することもできます。特別開館時間帯は、図書館の玄関前に返却ポストがありますので、こちらに図書を入れてください。視聴覚資料は職員がいる時間に、直接カウンターへ返却してください。

学内の図書・雑誌を探す

図書館の各階に2台ずつある検索用端末や、図書館の外からも、図書館HP(<http://www.lib.tut.ac.jp>)の「蔵書検索」(OPAC)のページから、学内にある図書・雑誌を調べることができます。また、これ以外に雑誌には電子ジャーナルがあります。こちらはOPACからは検索できません。利用できる電子ジャーナルの雑誌名は、図書館HPの「電子ジャーナル」のページをご覧ください。

*電子ジャーナル…インターネットを通じて見ることができる雑誌です。電子ジャーナルは、図書館HPを通じて学内から利用できます。

OPACの検索結果例 (図書)

「蔵書検索」のページから検索をすると、学内にある図書については、図書のある場所が表示されます。

例：「インターネットの使い方」

所在：図・3F開架 請求記号：547.48||S

*所在・・・資料のある場所、請求記号・・・図書の背についている番号

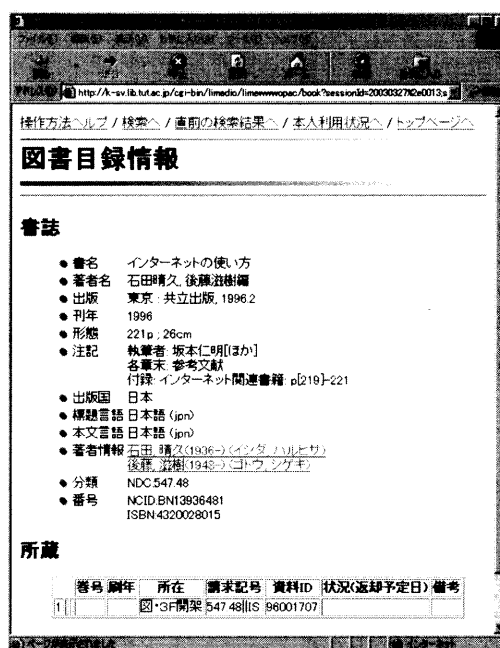
右図の例では、「インターネットの使い方」の図書は、図書館の3階開架書架の、請求記号547.48||Sにありますと表示されています。図書は、3階開架・1階参考などの所在ごとに請求記号順に並んでいます。

所在はほかに、

図・1F参考・・・図書館の1階参考図書コーナーにあります。

研・〇〇・・・研究室にあります。

などがあります。



資料のある場所について

1階には、貸出できない辞書、ハンドブックなどの参考図書、年鑑・白書があります。

2階には、最新号の雑誌と、それ以前の雑誌があります。

3階には、貸出できる図書と、岩波文庫などの文庫本や、岩波新書、講談社現代新書、中央公論新書、ブルーバックスなどの新書があります。

論文を探す

JOIS, SwetScan, CaonCDなどの文献データベースが利用できます。図書館1階のCD-ROM端末のみで利用できるもの、図書館HPを通じて研究室からも利用できるものなどがあります。詳しくは、図書館HPの「文献情報検索」のページをご覧ください。

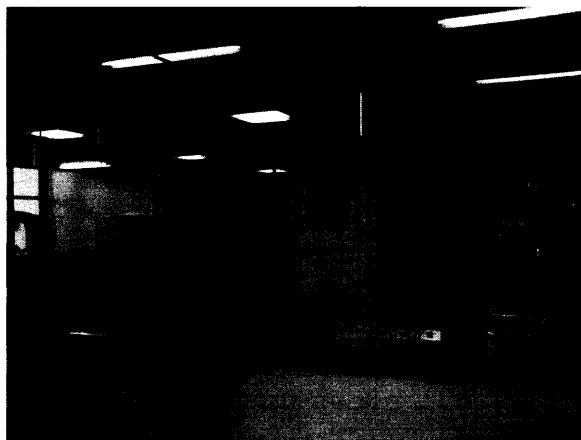
CD-ROM

科学技術文献速報、COMPENDEX、METADEX、HIASK、PDF、JIS総目録などが利用できます。カウンターに申し込んでください。

館内案内

カウンター（1階）

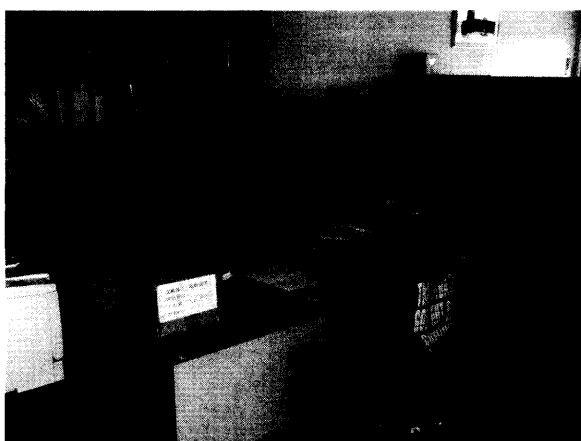
貸出、返却、ノートパソコンの貸出、図書館利用についての相談などを行なっています。



カウンター

レファレンス・デスク（1階）

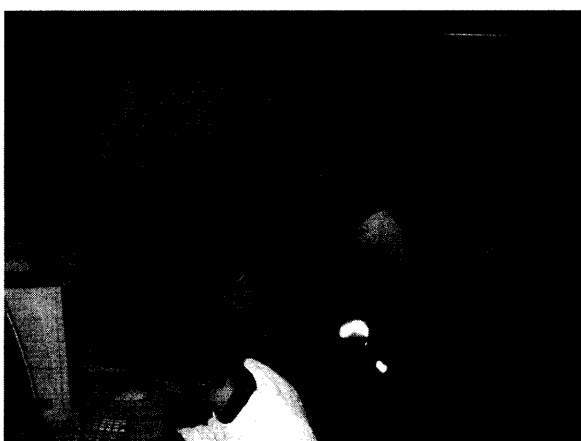
資料の検索についての相談や、資料の探し方、文献の取り寄せなどについて相談できます。



レファレンス・デスク

パソコンコーナー（1・2階）

1階にMacと、Windowsパソコンがあります。2階にはWindowsパソコンがあります。こちらのパソコンは自由に利用できます。



パソコンコーナー（2階）

ノートパソコンコーナー（1階）

1階にノートパソコンコーナーがあります。こちらのパソコンの利用には申し込みが必要です。カウンターでIDカードを提示し、お申し込みください。IDカードと引き換えにカギをお渡しします。

視聴覚資料コーナー（1階）

CD、ビデオ、テープ、DVDがあります。

ラウンジ（1階入り口）

朝日、中日、毎日、読売、中日スポーツ、日本経済、東愛知、東日、日刊工業、The Japan Times、Times、Herald Tribune、Garden weeklyの新聞があります。また、雑誌を読むことができます。

CD-ROM検索用端末（1階）

CD-ROM用端末が2台、PDFファイル用端末が1台、CA on CD用端末が1台あります。

コイン式コピー機（1階）

図書館の資料をコピーできます。他に、1・2階のカード式コピー機（校費のみ）があります。コピーする際はコピー機の横にある申し込み用紙にコピーする図書や雑誌の資料名、コピーするページ等を記入し、カウンターまでお持ちください。

雑誌架（2階）

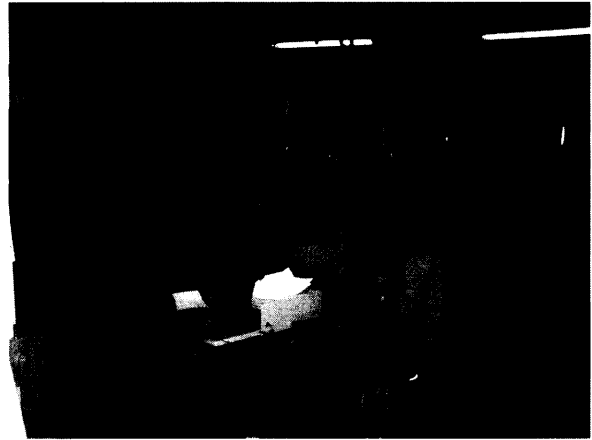
過去1年分のもものが、雑誌架にあります。過去のものは、製本されて、和雑誌は、2階パソコンコーナー前の書架、洋雑誌は、2階書架にあります。

グループ研究室（2階）、小グループ研究室（3階）

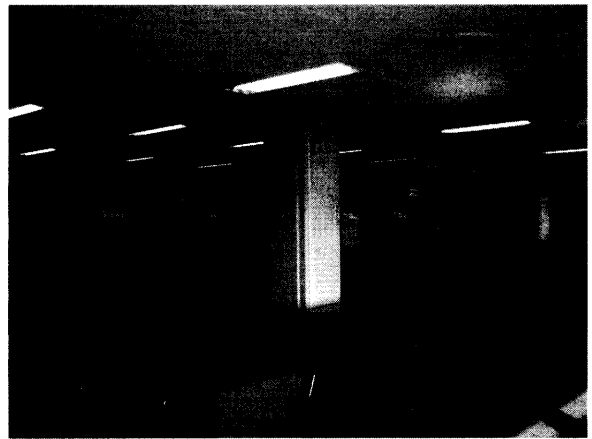
グループで部屋を借りることができます。カウンターにお申し込みください。

視聴覚室、視聴覚個室（3階）

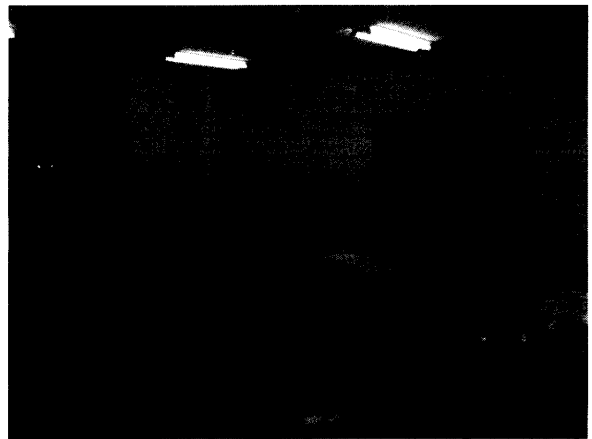
TV、CDデッキ、ビデオデッキ、DVDプレイヤーを利用できます。カウンターにお申し込みください。



ノートパソコンコーナー



3階書架



グループ研究室（2階）

守りましょう

- ・館内は喫煙・飲食は禁止です。
- ・携帯電話の電源を切り、通話もしないでください。
- ・館内では、私語を慎み、他の利用者の迷惑にならないよう、静かに利用してください。

文献情報ガイダンス

学術情報係

附属図書館では、これから論文を書く人のため、今日の学術情報の電子化やインターネットの進展等がめざましい環境の中で、効率よく必要な情報を獲得する方法について、下記のとおりガイダンスを実施いたします。

対象は、実際に論文を作成予定の方々（学部4年生、大学院生、教官）です。

参加ご希望の方は、レファレンスデスクに用意してあります所定の申込書にご記入のうえ、学術情報係宛にお申し込みください。

なお、テーマ別に実施日時が異なりますので、詳細はレファレンスデスク又は学術情報係（内線6564）でお尋ねください。

申し込み締切日は、4月18日（金）です。

記

実施日時 平成15年4月21日（月）～5月30日（金） 土、日、祝日は除く

実施内容 1) 文献の調べ方

- ・ SwetScanの検索（外国文献）
- ・ JOIS Easyの検索（NewJOIS）（日本及び外国の文献）
- ・ CA on CD(Chemical Abstracts)の検索（外国化学文献）
- ・ NACSIS-IR(雑誌記事索引ファイル等)の検索（日本文献）

2) 電子ジャーナルの利用

Elsevierサイエンスダイレクト

Springer LINK,

Kluwer Online

NACSIS-ELS等



Information

平成15年の電子ジャーナルデータベースについて(学術情報係)

学内のネットワークに接続されたパソコンから利用できます。図書館ホームページの電子ジャーナルのページからアクセスして下さい。利用にあたってはID,パスワードは不要です。

1. Elsevier の Science Direct 約 1,050 誌

Elsevier の電子ジャーナルコンソーシアムに参加。参加各機関が購読している雑誌を閲覧できます。バックファイルは概ね1998年以降が閲覧可能です。Academic Pressの雑誌(旧IDEAL)はElsevierに統合されましたので2003年よりScience Directで利用して下さい。

2. Springer の LINK 約 400 誌

Springer-LINK コンソーシアムに参加。2003年のLINKに含まれる電子ジャーナル全てにアクセスできます。バックファイルを含みますが、タイトル毎に、全文収録年が異なります。

3. Kluwer Online 約 640 誌

Kluwer Online コンソーシアムに参加。2003年のKluwer Onlineに含まれる電子ジャーナル全てにアクセスできます。バックファイルも含みます。

本学図書館からの学外への文献複写等の依頼について(学術情報係)

図書館や研究室で所蔵していない雑誌の論文の複写や図書の借用を学外の図書館等に依頼することができます。その場合はまずOPAC(学内所蔵資料のコンピュータによる検索)で本学に所蔵していないかどうか確認して下さい。また約2000誌の電子ジャーナルが利用できますのでそちらも確認して下さい。OPACは図書館に設置してあるOPAC専用端末で、または研究室のパソコンから図書館のホームページにアクセスして利用することができます。

資料が本学にない場合は、所定の申込書に記入の上、図書館レファレンスデスクへお申し込み下さい。教職員の場合は、e-mailやOPACからも申込ができます。申込書とe-mailでのフォーマットは図書館ホームページのレファレンスサービスのページにあります。

複写物が到着しますと、学生には電話およびe-mailで連絡しますので、連絡を受けたら早めに取りに来てください。教職員の場合は学内便で複写物を送ります。

インターネットで利用できる文献情報検索について（学術情報係）

図書館には文献を検索するためのさまざまな資料がありますが、図書館に来なくても研究室のパソコンから利用できる下記のような文献情報検索データベースもありますのでご利用下さい。

1. JOIS固定料金制

科学技術振興事業団（JST）から提供されている情報検索システムで、JICST科学技術文献ファイルが利用できます（利用できないデータベースもあります）。JICSTファイルは世界中の科学技術関係の雑誌約12,000種等の文献を収録しています（科学技術文献速報のデータベース）。

平成15年4月よりJOISはNewJOISとして検索システムが大幅に変更されます。検索の仕方については、文献情報ガイダンスで説明させていただきますが、個別にも説明いたしますのでお問い合わせください。

2. NACSIS-IR機関別定額制

国立情報学研究所（NII）から提供されている情報検索システムで、さまざまな分野のデータベースが利用できます（利用できないデータベースも一部あります）。主なデータベースとして雑誌記事索引データベース（国内の学術雑誌約9,000誌に掲載された論文を収録）や研究者ディレクトリ（国内の大学等に所属する研究者のプロフィールや研究課題、研究業績等を収録）、学会発表データベース（国内の学協会の会議で発表された研究の標題、発表者名、抄録等を収録）などがあります。

3. SwetScan

SwetsBalckwellから提供されている約15,000誌の外国雑誌のコンテンツを収録したデータベース。長岡技術科学大学のサーバにアクセスして利用します。複写依頼機能が付いています。

“ΑΛΗΘΕΙΑ”

図書館の入り口の壁に掲げられている銘板のギリシャ文字 “ΑΛΗΘΕΙΑ”（アレーテイア）は、「真理」を意味します。

表紙デザイン

この表紙のデザインは、野澤隆秀氏（本学卒業生・元建設工学系助手）によるものです。

14.10.1	メタデータ・データベース共同構築事業説明会（会場：名古屋大学） 参加者 情報管理係 黒柳裕子、学術情報係 美野部亜紀
14.10.23 ~25	平成14年度第88回全国図書館大会（会場：群馬県民会館） 参加者 情報管理係 黒柳裕子、情報サービス係 鈴木明美
14.10.23 ~25	NAIST電子図書館学講座（会場：奈良先端科学技術大学院大学） 参加者 学術情報係長
14.11.12 ~15	平成14年度大学図書館職員講習会（会場：京都大学） 受講者 情報サービス係 鈴木明美
14.11.26 ~27	第15回国立大学図書館協議会シンポジウム（会場：千葉大学） 参加者 情報管理係長
14.12.13	東海地区大学図書館協議会研修会（第1回）（会場：名古屋大学） 参加者 学術情報係 美野部亜紀
14.12.19	東海地区国立大学図書館協議会事務連絡会（会場：名古屋大学） 出席者 教務部長、図書課長
15. 2. 6 ~7	第5回高専・豊橋技術科学大学図書館業務検討会 参加校 宇部工業高等専門学校、阿南工業高等専門学校、高知工業高等専門学校 北九州工業高等専門学校、久留米工業高等専門学校
15. 3. 4	東海地区大学図書館協議会研修会（第2回）（会場：名古屋市立大学） 参加者 情報サービス係長
15. 3. 4 ~5	NIJ国際シンポジウム（会場：国際連合大学） 参加者 学術情報係長

豊橋技術科学大学附属図書館報「AΛHΘEIA」第25号 平成15年4月1日

■編集・発行 豊橋技術科学大学教務部図書課

■〒441-8580 愛知県豊橋市天伯町雲雀ヶ丘1-1 TEL. 0532-44-6562
FAX. 0532-44-6566